

地域社会学会会報

No.232 2023.4.3.

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部
松宮朝研究室内

TEL 0561-76-8706(直) FAX 0561-64-1107 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

◆…………… 〈 会報 232 号のトピック 〉 ……………◆

- 1)第 4 回研究例会の批評論文は「地域社会学会ジャーナル」No.10 (WEB 版) に掲載されます。(4 月 20 日頃公開予定です。)
- 2)2022 年度の会費未納入の方は、納入をお願いします。詳細は 7 ページをご覧ください。
- 3)2023 年度 5 月 1 日より、会員管理、会費納入システムとして、SMOOSY の導入を行います。新たなシステムへの移行、および 2023 年度会費納入については、2 ページをご確認下さい。

目 次

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 社会学系コンソーシアム担当からの報告
5. 第 16 回 (2022 年度) 地域社会学会賞の選考経過と受賞作の発表、各講評と受賞者の言葉
6. 事務局からのお知らせとお願い
7. 会員異動
8. 会員の研究成果情報
9. 理事会のご案内

2023 年度 大会のご案内

日時 2023 年 5 月 13 日 (土) ~14 日 (日)

会場 駒澤大学

※会場の詳細、プログラム・報告要旨は、次号 233 号に掲載します。

1. 理事会からの報告

2022年度地域社会学会第5回理事会は、2023年2月18日（土）の10時30分から12時30分まで、立教大学（ハイブリッド形式）で開催されました。ここでは、審議事項として8件が議論されました。

出席（17名、敬称略）：浅野慎一、伊藤亜都子、木田勇輔、小山弘美、齊藤綾美、佐藤洋子、清水洋行、高木竜輔、玉野和志、中澤秀雄、船戸修一、松木孝文、松宮朝（記録）、町村敬志、丸山真央、望月美希、吉野英岐

1-1. 2022年度大会について

2023年5月13日（土）・14日（日）の両日、駒澤大学で実施します。当日は、全面対面で実施します。

今大会から、大会の開催にあたり、ベビーシッター代等の託児補助を行なうことになりました。こちらの点を含め、プログラム、報告要旨、会場については、次号会報で詳細についてご案内します。

1-2. 事務局の外部委託について

地域社会学会は会員管理システムとしてSMOOSYを導入します。

新会計年度が始まる5月1日よりSMOOSYのシステム利用を開始する予定です

2023年度会費については、恐れ入りますが、5月1日以降にお支払いいただくようお願いいたします。

なお、SMOOSY導入と利用方法については、4月末に、学会ホームページ、メーリングリストでご案内いたします。

その他の内容については、各委員会報告・事務局報告をご覧ください。

（松宮 朝）

2. 研究委員会からの報告

2月18日（土）に2022年度第4回研究例会が、前回に引き続き対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。吉原直樹会員と福田友子会員にご報告いただき、対面参加が14名、オンライン参加者が最大時で31名でした。当日の報告の概要については『地域社会学会ジャーナル』第10号をご参照ください。また、会場および機材等の手配・準備にあたり、阪口毅会員に多大なご尽力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

次は、いよいよ5月13日（土）～14日（日）の第48回大会となります。こちらは、駒澤大学にて対面での開催です。大会シンポジウムは「流動化する社会における生活困難と地域社会」をテーマとし、次の3名から報告していただきます。まず、全体の基調となる報告として非会員の宮本太郎氏（中央大学）、外国につながる子どもをめぐって新藤慶会員（群馬大学）、地方自治研究の視点から今井照会員（地方自治総合研究所）です。本年度の全4回の研究例会での議論をふまえつつ、流動的な空間に生きる「新しい生活困難層」の社会的包摂に向けて、地域社会および地域社会学に何が求められているか、どのような可能性と課題に迫る時間となればと考えています。

また、自由報告部会は、13日（土）に3部会、14日（日）に2部会となる予定です。大会シンポジウム、自由報告部会等の要旨ほか詳細については、次号の会報233号でご紹介します。対面での開催は、2019年5月の第44回大会（神戸学院大学）以来となります。みなさまと会場にて直接お会いし、議論や交流ができることを楽しみにしております。

（清水 洋行）

3. 編集委員会からの報告

2月17日に第5回編集委員会をオンラインで開催し、編集委員のうち7名の出席により、年報35集（2023年5月刊行予定）の編集進捗状況について話し合いました。第1に、自由

投稿論文 4 本の掲載の可否について検討し、今後の対応を確認しました。第 2 に、特集論文や書評などの原稿収集状況や今後の編集スケジュールについて確認しました。特集論文は、大会シンポジウム（「新型コロナ禍の中の『移動』と地域社会」）の登壇者に寄稿を依頼し、解題を含め計 4 本が掲載される予定です。また書評 10 本、書評リプライ 1 本、自著紹介 1 本が掲載される予定です。お忙しいなか、査読や執筆をお引き受けくださった皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。現在、大会までに年報 35 集を発刊できるよう編集作業を鋭意進めています。

（船戸 修一）

4. 社会学コンソーシアム担当からの報告

2023 年 1 月 28 日に、社会学系コンソーシアムの評議員会が開かれると同時に、第 15 回のシンポジウム「ダイバーシティ推進と日本社会の<不平等>」が、オンラインで開催されました。来年も同じ時期にシンポジウムが開催されますので、会報でもご連絡しますが、社会学系コンソーシアムのウェブサイトなどでご確認いただければ幸いです。

（玉野 和志）

5. 第 16 回（2022 年度）地域社会学会賞の選考経過と受賞作の発表、各講評と受賞者の言葉

5-1. 選考経過

2022 年度の選考対象となった作品は、2021 年 6 月 1 日から 2022 年 5 月 31 日までの 1 年間に刊行された本学会会員の著作・論文である。

第 1 回委員会は、オンラインにより 2022 年 10 月 20 日（木）に実施した。そこで、9 月末日までに 16 名の推薦委員から推薦された作品と自薦・他薦の作品を含めて資格審査を行い、選考対象の著作を、以下のように確定した。

地域社会学会賞（個人著作部門）：2 点

地域社会学会賞（共同研究部門）：3 点

地域社会学会奨励賞（個人著作部門）：1 点

地域社会学会奨励賞（共同研究部門）：0 点

地域社会学会奨励賞（論文部門）：3 点

第 2 回（12 月 15 日）、第 3 回（2 月 6 日）の選考委員会において対象作品について慎重に審議し、受賞作候補を決定した。その後の理事会に報告し、受賞作が以下のように決定された。

○地域社会学会賞（個人著作部門）

受賞作なし

○地域社会学会賞（共同研究部門）

・高木竜輔・佐藤彰彦・金井利之編著『原発事故被災自治体の再生と苦悩—富岡町 10 年の記録』第一法規株式会社、2021 年 12 月

○地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

・坂口毅『流れゆく者たちのコミュニティ：新宿・大久保と「集合的な出来事」の都市モノグラフ』ナカニシヤ出版、2022 年 2 月

○地域社会学会奨励賞（共同研究部門）

受賞作なし

○地域社会学会奨励賞（論文部門）

受賞作なし

5-2. 今期の推薦委員

2021-22年度の推薦委員を公表いたします。記してご協力に感謝いたします。

上山浩次郎・齋藤康則・祐成保志・鈴木鉄忠・松菌祐子・山本崇記・加藤泰子・速水聖子

5-3. 授賞刊行物の講評

【地域社会学会賞（共同研究部門）】

◇高木竜輔・佐藤彰彦・金井利之編著 『原発事故被災自治体の再生と苦悩—富岡町10年の記録』第一法規株式会社、2021年12月

本書は、原発事故での被災に関わる自治体再建研究グループの活動を踏まえ、富岡町の震災10年後の姿を多角的に評価しようとした著作である。ここで取り上げられる内容は、生活基盤と条件を整える除染事業、産業政策としてのイノベーション・コースト構想、そのひとつの典型としての復興メガソーラー事業、被災者の生活と福祉を支える事業としての地域包括ケアシステムの実態と変化といった幅広いテーマであり、避難先での長期の安定的な生活の維持確保と富岡町周辺への帰還政策をカバーする内容となっている。既にこの研究グループの成果として公表された超長期の町の将来像を展望する復興シナリオ（さまざまな地域住民の意見や議論を集約し専門家のサポートを得た活動の成果として提起された、避難先での生活の安定化を基礎にしながら富岡町の世代を超えて実現をめざす第三の道を模索したシナリオ）を本書のひとつの議論の拠り所として、この超長期の復興を支えるさまざまな領域の中間集団や活動について逐一検討しながら、帰還を促進する復興政策のなかで予算を削減され活動基盤を削がれ隘路に立たされていく様相を記していくことで、原子力災害による被災自治体が置かれた状況を克明に分析しようとしたものである。この著作は、原子力災害とその後の原子力政策に翻弄されている富岡町の姿を丹念に追ってきた研究者集団の努力の賜物であり、テーマの広がり割に、全体の筋立てに統一性が保たれ充実した内容になっている。

以上から、地域社会学会賞（共同研究部門）の授賞に相応しい研究と判断した。

（浦野 正樹）

【地域社会学会奨励賞（個人著作部門）】

◇坂口毅 『流れゆく者たちのコミュニティ：新宿・大久保と「集合的な出来事」の都市モノグラフ』ナカニシヤ出版、2022年2月

本書は、新宿・大久保という「場所」をとりまく「出来事」に関する詳細なモノグラフ研究の試みである。従来までの定住者を中心としたコミュニティ研究ではなく、移動者を含んだコミュニティをとらえるために、関係的位相と制度的位相に加えて、象徴的位相における領域性に注目することが理論的に提起される。これにもとづき、まずは大久保地区が歴史的に様々な移動の地層を育んできたことが詳細に示される。そのうえで近年、韓流を含めた多様な民族的背景をもった人々が流入した大久保地区に成立した、「共住墾」という組織を中心に、2009年から2011年にかけて行われた祭イベントの経緯が詳細に分析されている。そこでは当初外部から人を集めるエスニック・イベントとしての性格が強かった祭が、やがて外国人であろうが、日本人であろうが、祭を契機に近隣でつながり合おうというイベントへと変化していく姿が、多様な象徴的コミュニティの重なり合いと交錯の中で考察されている。それらの分析をふまえて、多様な象徴的コミュニティの重なり合いが、それでも歴史的につながりながら展開していく、流れゆく者たちのコミュニティ研究の地平が、新たに開かれるべきことが主張されている。

本書は、これまでのコミュニティ研究の様々な系譜と成果を批判的・発展的に継承し、移動を常態とした新しいコミュニティのとらえ方を、具体的なモノグラフ研究を通じて、説得的に提示したものであり、これからの地域研究を考えるうえで、大きな可能性を感じさせるものである。よって、地域社会学会奨励賞（個人著作部門）の受賞に相応しいと判断した。

5-4. 受賞者の言葉

○地域社会学会賞（共同研究部門）

高木竜輔（尚絅学院大学）

佐藤彰彦（高崎経済大学）

この度は、高木竜輔・佐藤彰彦・金井利之編著『原発事故被災自治体の再生と苦悩』に地域社会学会賞を授与していただき、誠にありがとうございました。書籍に執筆していただいた山本薫子先生、横山智樹先生ほか執筆者を代表して、お礼の言葉を申し上げたいと思います。

本書は福島第一原発事故以降、継続的な調査に取り組んできた研究グループによる成果です。もともとは山下祐介先生と金井利之先生との出会いがきっかけで、そこに今井照先生、故船橋晴俊先生が加わる形で学際的な体制で研究がスタートしました。山下先生を含めた社会学者が富岡町を調査していた縁で、自治体としての富岡町に焦点をあてた調査研究を継続して実施してきました。その後、研究者の入れ替わりがありました。書籍に執筆したメンバーを中心とした研究会として現在も継続しています。

本書の企画は、科学研究費の成果を本にすべく 2020 年初頭からスタートしました。その際に意図していたのは、原発事故被災自治体である富岡町に焦点をあて、そこで展開される復興政策とその影響を多角的に論証したい、ということにありました。原発事故被災地においては避難指示や被災者支援、除染、廃炉、復興計画などさまざまな課題があります。これらをめぐる矛盾が一番顕在化するのが被災自治体の被災地再生とそのための施策に現れると考えていました。成果をまとめる際の構想としては、これまで地域社会学で実践されてきた構造分析による研究蓄積をイメージしていました。もちろん、先達の研究には遠く及ばないものであり、そのように言うのは憚られますが。

ただし一番重要なのは、この書籍が被災者の生活再建ならびに被災地の地域再生に少しでも貢献することであり、執筆者一同そのことを切に願っています。研究に協力していただいた方々にお礼を申し上げつつ、今後も研究を通してお返しが出来ればと思っております。

○地域社会学会奨励賞（個人著作部門）

阪口 毅（立教大学）

この度は、拙著『流れゆく者たちのコミュニティ——新宿・大久保と「集合的な出来事」の都市モノグラフ』を地域社会学会奨励賞に選出していただき、まことにありがとうございました。

本書は東京のインナーエリア、新宿・大久保にて 2007 年より継続してきたフィールドワークの集大成となるモノグラフです。メンバーの入れ替わりの早さや構造的な不安定さ、象徴的分化（下位文化の増大）によって特徴づけられた後期近代のコミュニティの在り方を捉えるため、本書ではコミュニティを关系的／制度的／象徴的位相の相互連関する社会過程として捉え、「集合的な出来事」に焦点を置く新たなアプローチを提起・実践しています。コミュニティの領域性（territoriality）は象徴的に構築されるものである一方で、关系的・制度的な条件と相互規程関係にあること、コミュニティの三つの位相は特定の時間と空間のなかで「一時的な体制」となって現象し得ることを明らかにし、「ポストモダン・コミュニティ」論（G. Delanty; Z. Bauman）や「創発的コミュニティ」論（吉原直樹）が、ともすれば一様に「開かれた」「流れ（flow）」として捉えがちな——それゆえ「一時的な」「儂い」現象とされる——（後期近代の）コミュニティを「開くことと閉じること」の「律動（rhythm）」として捉えなおすことを提案しています。

約 10 年前、本書のアプローチの原型となる方法論的な論考に対して、奨励賞（論文の部）を頂戴して以来、学会員の皆様より変わらぬご支援を賜りましたこと、あらためて感謝申し上げます。本書をベースにした研究例会での筆者の報告に対する、三浦倫平・辻岳史両先生の批評論文（地域社会学会ジャーナル No. 8）にもたいへん励まされました。

最後になりましたが、新宿・大久保で出会い活動を共にさせて頂いた皆様、学生時代から

研究を支えてくださった方々に感謝を申し上げます。

6. 事務局からのお知らせとお願い

6-1. 会費納入状況

2023年2月15日時点の会員は387名（一般348名、院生22名、終身17名）で、会費納入率は72.4%でした。

今年度までの3年以上滞納者は5名おり、会員資格喪失について審議事項になります。

6-2. 会報231号・ジャーナルNo.9の発行

学会HP上で会報231号とジャーナルNo.9が発行されました。

6-3. 2022年度会費納入のお願い

2022年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願ひします。郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2022年度会費」を明記の上、会費（一般会員6,500円、院生会員5,000円）のご送金をお願いします。2022年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第34集をお送りします。

6-4. 会員の研究成果情報の提供のお願い

2022年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会WEBサイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願ひします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

（松宮 朝）

7. 会員異動（敬称略）

<新入会員>

- ・金子望美（東京都立大学大学院人文科学研究科）

研究テーマ：ベトナムにおける創造経済概念の台頭と、都市空間にもたらした影響についての調査と考察

フィールド：ベトナムのハノイを中心とした都市部

（以上、2023年2月18日理事会で承認）

8. 会員の研究成果情報(2021年～2022年度)

2021年論文

岩永真治（2021年3月）「『フィルターX』とはなにか—身体性向としての社会的距離に関する一考察—」明治学院大学社会学部学内学会編『Socially』No.29, pp.81-89

岩永真治（2021年8月）「コロナ禍の地域社会において何が問題になっているのか—行動性向としての『健康』『介入』『まちづくり』に関する社会学的分析—」地域社会学会編『地域社会学会ジャーナル』創刊号, pp.67-74

2022年論文

岩永真治（2022年3月）「対面行動の社会的変容について—『感情理性（ヘクシス・メタ・ログ）—主義』宣言—」明治学院大学社会学部学内学会編『Socially』No.30, pp.35-57

IWANAGA Shinji and TAKAHASHI Harutaka (2022) 'Nicomachean Ethics and the Classical Dimension of Smith's Theory: In Pursuit of the Honorable and Noble, "to kalon," as a Market Morality,' Working Paper Presented at the Conference of *Market Morality, Globalization,*

and Income Inequality, Held on November 22 and 23, at the IMÉRA of Aix-Marseille Université, Marseille, France, pp.1-16

2022 年その他

翻訳（共訳） チャールズ A. エルウッド(2022 年 3 月)(岩永真治・藤井理南子・松岡真未・渡邊千尋訳)「社会学者としてのアリストテレス」(『アメリカ政治科学アカデミー年誌』第 19 巻, 1902 年)明治学院大学社会学部学内学会編『Socially』No.30, pp.71-78

岩永真治 (2021 年 3 月)「『ヘクシスの社会学』における研究対象について」明治学院大学社会学部社会学科編『社会学とはどのような学問か』Web 完全版, pp. 2-23

海外発表 国際会議発表(言語, 英語 50 分) IWANAGA Shinji (2022), 'In Pursuit of the Honorable and Noble, "το καλόν": Aristotle meets the Concept of Sympathy in Adam Smith,' Presented at the Conference of *Market Morality, Globalization, and Income Inequality*, Held on November 23, at the IMÉRA of Aix-Marseille Université, Marseille, France

9. 理事会のご案内

第 6 回理事会

日時 5 月 12 日 (金) 15 : 00 ~ (オンライン)